

### 1. 検討の基本的事項

#### ①未来を見据えた都市構造とは

未来の都市住民の『暮らし方（ライフスタイル）』を見据え、その暮らし方を実現するための『まちの姿（都市機能の配置や内容）』のあり方を、関連づけて示すもの

- ・未来とは…約20年後（団塊の世代が85歳に突入する2035年頃）を想像
- ・都市住民とは…丹波市民

#### ②検討の範囲

市民の暮らしの全てを検討の範囲とするのではなく、20年後の暮らし方に関わる課題のうち、都市機能の配置や内容・水準などとの関係の中で、解決策を検討していくべきものを対象とする。

- 都市構造として検討するものとして例えば…
- 学校施設の統合は検討対象とするが、いじめ問題や学力向上など教育そのものの課題は対象としない。
  - 大規模商業施設の配置や地域での個店の確保等は検討対象とするが、商業全般の振興問題は対象としない。
  - 医療・福祉等の施設配置や地域包括ケアシステムの構築は検討対象とするが、健康長寿や福祉のあり方は対象としない。

### 2. 検討の背景

『人口減少、少子高齢化が進む社会において、どのようなまちや暮らしを創っていくべきか』

- 人口減少、少子高齢化がさらに進み、地域経済が縮小する
- 市の財政状況は厳しくなり、行政サービスの維持が困難になる
- 自家用車を運転できる者が少なくなり、公共交通の重要性が高まる
- 地域の担い手が減少し、地域における新しい自治の形が必要になる
- 統合新病院を核として、暮らしの安心を高めるための医療・保健・福祉の機能再編が必要になる
- 小学校等の公共施設の統廃合が進む
- 訪日外国人旅行者が増加し、選ばれる場所として観光資源の魅力向上が必要になる
- 頻発化・激甚化する自然災害に対して、防災・減災対策が必要になる
- 公助の限界を補完するために、自助・共助・互助の重要性が高まる



### 3. 20年後、丹波市民はどんな暮らし方をしていますか？（まちの姿と暮らし方は、どうなっているのが良いですか）

#### ①どこに住みますか？

- ・地域に定着している人は
- ・今後住む場所を選ぶ若い人たちは
- ・一度都会に出て戻ってくる人は
- ・移住してくる人は

#### ②地域での暮らし方は？

- ・安心な生活環境
- ・ご近所づきあい
- ・働く場
- ・移住者や観光客との交流

#### ③まちの中心部での暮らし方は？

- ・高度で専門的な商品やサービスの取得
- ・高度で専門的な医療や福祉の利用
- ・週末の文化スポーツの楽しみ

#### ④身近な地域に必要な都市機能は？

- ・日用品や食品のミニスーパーや個店
- ・JAなど金融機関やATM、郵便局
- ・診療所、かかりつけ医
- ・地域包括センターへの通所
- ・こども園、小中学校
- ・移住、定住や観光交流の窓口
- ・必要最小限の行政窓口
- ・中心部へのバス路線、地域内交通

#### ⑤中心部に集積させる都市機能は？

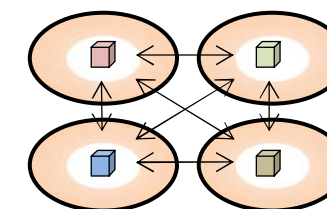
- ・大型商業施設、飲食・物販・サービス店舗、宿泊施設
- ・金融機関の本支店、主たる郵便局
- ・県立丹波医療センターを中心とする医療福祉センター機能
- ・文化ホールや図書館
- ・市役所、消防本部、国や県の施設
- ・市内外を結ぶ鉄道駅やバス拠点

#### ⑥そうした暮らし方や都市機能を誰がどのように支えますか？

- 行政の役割は
  - 市民の役割は
  - 民間事業者の役割は
- ・まちの中心部では行政とともに、民間事業者の活躍に期待
  - ・地域では自治協議会による地域自治機能に期待
  - ・移住者や観光交流の来訪者の役割に期待
  - ・廃校活用等では民間事業者に期待
  - ・コミュニティビジネスの視点も加味した地域自治活動に期待

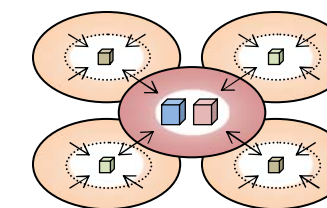
#### 【A:住みなれた地域に住み続ける+市内各地に都市機能は分散】

- ・都市機能が身近にあり地域で便利に暮らせる
- ・効率性は低いのでコスト負担が大きい



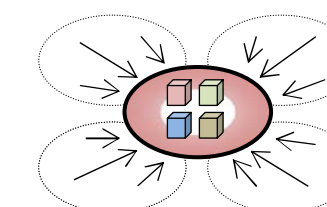
#### 【B:住みなれた地域に住み続ける+中心部に都市機能を一定集積】

- ・全市的機能は中心部に集積して効率化を図り、最小限の機能を地域に残し、全体効率はある程度確保
- ・中心部でも地域でも目的に応じて快適な暮らし方を支える



#### 【C:都市機能が集積した中心部に集まって住む】

- ・都市機能と居住が一極集中する中心部では、効率的で快適便利な暮らしが送れる
- ・反面、住み慣れた地域を離れ、希薄な人間関係の中で暮らしを営まなければならない



(1) まちの中心部への移動は自家用車ですか、路線バス等ですか？

●まちの姿

- ・市民ニーズに応じて、路線バスの路線やダイヤが充実、バス停の待合環境の改善
- ・利用者が増え、空車で走るバスは少ない



●暮らし方

- ・大規模商業施設や銀行、市役所などへはもっぱら路線バスを使って行きます
- ・運賃は少し高いけど、みんな路線バスを積極的に使っています

(5) 地域課題は、だれが対応しますか？

●まちの姿

- ・小学校単位の自治協議会が市民活動の中心となって、地域課題の解決に向けた多様な自治活動（安否確認、配食サービス）を展開
- ・自治協議会と多様な市民団体の連携した市民活動が市内の随所で活発に展開

●暮らし方

- ・地域に住む多くの人が積極的に自治協議会の活動に参加しています
- ・今まで行政に頼っていた地域課題の解決も自分達の手で解決することが多くなっています



(2) 健康や医療、福祉は、どこで、どんなサービスを得ますか？

●まちの姿

- ・地域にはかかりつけ医が身近にあり、中心部には県立丹波医療センター（仮称）が開院
- ・保健、医療、介護、福祉が連携した丹波市版地域包括ケアシステムが構築

●暮らし方

- ・普段は地域のかかりつけ医に診てもらい、必要なときには路線バスを使って県立丹波医療センター（仮称）に行っています
- ・地域では、地元集会所で100歳体操に参加し健康を維持しています



(6) 学校統合は、どのように進めますか？

●まちの姿

- ・子どもたちの数が減る中、市民は悩みながらも議論し、学校の統廃合が進展
- ・統廃合とあわせ廃校の利活用が促進



●暮らし方

- ・住み慣れた地域の中で、教育環境を第一に考え、学校統合が進んでいます
- ・学校では生き生きと活動する子どもたちの姿が見られます

(3) 観光振興は、どこで、だれが担いますか？

●まちの姿

- ・美しい自然、丹波三宝などの食、日本一低い中央分水嶺、恐竜化石など豊かな地域資源に磨きがかかり、周遊化が充実
- ・丹波らしい宿泊施設が増え、観光産業が基幹産業へ成長



●暮らし方

- ・観光DMOによる観光振興が進められ、観光を生業とする人が増えています
- ・エリアマネジメントの考えを取り入れて地域ごとに多くの人が特色ある取組にかかわっています

(7) 今よりもっと安全・安心なまちにするため、どうしますか？

●まちの姿

- ・救急、消防体制（ハシゴ車）の充実
- ・市の中心部では都市機能の集積整備とともに田んぼダムや調整池が整備

●暮らし方

- ・20年前より救急車や消防車の到着時間が短縮され、どの地域でも10分以内に到着しています
- ・災害に対する備えが高まっています



(4) 行政機能の効率化はどのように進めますか？

●まちの姿

- ・一定の必要最小限の行政機能は支所に残しつつ、市の中心部に統合庁舎が整備

●暮らし方

- ・市民にとってもいくつもの庁舎を回らなくても用事を済ませることができて便利になっています



(8) 週末や休日は、どこで、どのように楽しみますか？

●まちの姿

- ・市の中心部に週末や休日を楽しめる施設や機能が充実

●暮らし方

- ・市の中心部にあるおしゃれなレストランやカフェで楽しみ、バスなど公共交通を利用して帰宅しています
- ・市の中心部にある文化ホールやテニスクラブで文化スポーツを楽しんでいます

